

THE 52ND KANAGAWA ART EXHIBITION 2016

第52回

# 神奈川県 美術展

## 中高生特別企画展

期日 平成28年8月31日(水)～9月25日(日)

会場 神奈川県民ホールギャラリー

主催 神奈川県美術展委員会

神奈川県民ホール

[指定管理者：公益財団法人神奈川県芸術文化財団]

神奈川県

協賛 一般財団法人神山財団

株式会社有隣堂

ゴールデン文具株式会社

### 神山財団賞

伊藤可南子	私立東海大学付属相模高等学校	高2	心像	平面
宮垣 朱音	県立上矢部高等学校	高3	融和	平面
岩田 奈巳	県立上矢部高等学校	高1	青嵐	工芸
田中つぐみ	県立荏田高等学校	高3	臨 王鐸	書
稲葉ひより	県立瀬谷高等学校	高2	カレイドグラス	写真

### 有隣堂賞

小林 千紗	県立岸根高等学校	高1	鳳凰	平面
村越 敬太	県立藤沢西高等学校	高2	清夏	平面
藤森 秋穂	綾瀬市立北の台中学校	中2	深谷長方皿	工芸
阿閉 ゆり	私立湘南学院高等学校	高3	臨 石山切貫之集	書
野中 康平	県立市ケ尾高等学校	高2	タイムトンネル	写真

### ゴールデン文具賞

栈敷 真惟	横浜市立六角橋中学校	中2	臨 蘭亭叙	書
原 千尋	川崎市立高津高等学校	高2	関戸本古今集	書
山崎 成海	県立港北高等学校	高2	龍	書

### 美術奨学会記念賞

岡本 拓海	県立相模田名高等学校	高3	了仙寺	平面
佐々木鶴奈	私立横浜隼人高等学校	高1	小さな私	平面
簗島ひかり	私立湘南白百合学園高等学校	高1	まぶしい日に	書
松原 知里	県立相模原青陵高等学校	高3	blue sky bulb	写真
山口 耀	県立相模原青陵高等学校	高2	ガラクタ王国と力の源	写真

※掲載順は部門順・五十音順です。

※神山財団賞は、一般財団法人神山財団から贈られる賞です。

※有隣堂賞は、株式会社有隣堂から贈られる賞です。

※ゴールデン文具賞は、ゴールデン文具株式会社から贈られる賞です。

※美術奨学会記念賞は、長年、神奈川県美術振興に寄与してきた財団法人神奈川県美術奨学会を記念して創立された賞です。

## 平面

吉野 凚	葉山町立葉山中学校	中 1	成長
加藤 七海	私立向上高等学校	高 2	夏の愛甲石田
太田 遼介	私立柏木学園高等学校	高 2	現象的な世界
和田 有加	私立山手学院高等学校	高 3	みつめる
田中 涼乃	私立山手学院高等学校	高 3	千変万化
大沢 愛			the Sun - はじまりの光 -
近藤 健二 横川 美月	県立保土ヶ谷養護学校	高 3	HYG - 16 SUMMER
小川 歩海	県立岸根高等学校	高 1	そよ風の道
永井 武志	県立横浜修悠館高等学校	高 1	ひまわり
豊田クレア			アクロス ザ ユニバース (僕の宇宙の中)
石井空来乃	県立上矢部高等学校	高 3	少年 A
辻本 真彩	県立上矢部高等学校	高 3	Not to proceed
藪田 凱斗	横浜市立金沢中学校	中 2	LOVE & PEACE
青木 蛭純	私立横浜隼人高等学校	高 2	夏
橋本 航太	私立横浜隼人高等学校	高 1	7cm
尾崎いずみ	私立横浜隼人高等学校	高 2	夏
木村 優希	私立横浜隼人高等学校	高 1	青い風
藤牧 天音	私立横浜隼人高等学校	高 2	神秘
榊原 桃子	私立横浜隼人高等学校	高 2	対峙
中村 朱里	私立横浜隼人高等学校	高 2	染まる
塩塚みのり	私立横浜隼人高等学校	高 3	一生に一度の時間
菊池 颯斗	大和市立下福田中学校	中 3	鬼・怒・相・落
井上ひかり	川崎市立川崎総合科学高等学校	高 2	半醒半睡

## 工芸

渡邊 碧衣	綾瀬市立北の台中学校	中 3	瓜型手付き鉢
廣 美咲	綾瀬市立北の台中学校	中 2	清流の栖
小林萌々子	綾瀬市立北の台中学校	中 2	木の葉の舞
山口 瑞生	私立慶応義塾普通部	中 3	スタンドグラス～獅子～
菊 智子	県立鶴見総合高等学校	高 2	心咲
坂口 綾芽	県立鶴見総合高等学校	高 2	優蕾
猪瀬 杏華	県立綾瀬西高等学校	高 1	船のライン
猶井千咲子	県立相模原青陵高等学校	高 3	無題
渡邊久瑠実	県立上矢部高等学校	高 1	蒼枯
的野 安珠	県立弥栄高等学校	高 3	万年壺
詫摩 愛華	県立弥栄高等学校	高 3	おしゃれな野菜
日野原 碧	綾瀬市立北の台中学校	中 3	花卉の思い

※掲載は作品番号順です。

書

星野 真那	県立平塚江南高等学校	高2	わなかひろしの詩
渡辺 茉優	私立函嶺白百合学園高等学校	高3	可能性のつばさ
中島 大河	大磯町立大磯中学校	中2	わなかひろしの詩
石川 千晶	県立鶴嶺高等学校	高3	茜色
渡辺 美優	私立フェリス女学院中学校	中3	凧の風景
平野うらら	県立横浜国際高等学校	高1	潮音の詩 かぜひかる
佐々木唯乃	私立横浜雙葉中学校	中3	漢文集より臨書
成澤凜々香	相模原市立谷口中学校	中2	蘭亭序
中川 歩美	横浜市立金沢高等学校	高2	冬を待つ
勝又 佑花	私立湘南学院高等学校	高1	臨 多宝塔碑
三宅 隼介	私立栄光学園中学校	中1	坂
藤岡 知菜	私立神奈川学園高等学校	高2	集字聖教序
梅本 梨花	県立川和高等学校	高1	多士寔寧晉楚
井出 夏海	横浜市立岩崎中学校	中2	自然の神秘
青木八千穂	県立茅ヶ崎高等学校	高2	李白詩
藤岡 真菜	私立神奈川学園高等学校	高2	臨 雁塔聖教序
井島 篁雨	私立横浜雙葉高等学校	高2	臨 雁塔聖教序
中郡 一貴	県立港北高等学校	高1	臨 「高野切古今和歌集第一種」
苗代 瑞来	県立港北高等学校	高2	瞬
高野 涼夏	川崎市立高津高等学校	高3	爨宝子碑
山本 紗矢	川崎市立高津高等学校	高2	光明皇后樂毅論
押川 結笑	川崎市立高津高等学校	高2	灌頂歴名
樽林 未緒	川崎市立高津高等学校	高3	九成宮醴泉銘
高松 妃瑠	川崎市立高津高等学校	高2	送裴將軍詩
河村 夏帆	川崎市立高津高等学校	高3	真草千字文
佐藤 麻畝	川崎市立高津高等学校	高3	伊都内親王願文
松下 麗道	川崎市立高津高等学校	高3	孫秋生造像記
吉塚 夏海	川崎市立高津高等学校	高3	米芾
津端 里胡	川崎市立橘高等学校	高2	臨 吳熙載 隸書文語横披
三島かこの	茅ヶ崎市立西浜中学校	中3	読未曾見之書

## 写真

田村 鞠果	Centennial Secondary School	高3	刹那
武田 直輝	県立横浜翠嵐高等学校	高2	でっかい夢を見てるんだにゃ～
小関三四郎	県立横浜翠嵐高等学校	高2	何故私を撮るの？
原 玲奈	県立横浜翠嵐高等学校	高2	昼下がり
長島 陸也	県立横浜翠嵐高等学校	高2	なつのすごしかた
松本 琴美	県立横浜翠嵐高等学校	高2	ひとやすみ
尾関 能英	県立横浜翠嵐高等学校	高2	これが欲しいの！
山本 恭平	県立横浜翠嵐高等学校	高2	切れアジ
高橋緋小羽	県立瀬谷高等学校	高3	涼味はじめました
橋本 玲奈	県立瀬谷高等学校	高2	フラッシュバック
山崎 太子	県立瀬谷高等学校	高2	裁きは厳かに
衛藤 杏美	県立瀬谷高等学校	高2	Feel me
川平 未歩	県立瀬谷高等学校	高3	光を訪ねて
中條 孔貴	県立瀬谷高等学校	高2	満員御礼
河野恭志郎	県立瀬谷高等学校	高3	エノデンスコープ

一生懸命制作された「神奈川県美術展中高生特別企画展」出品作品を拝見し、素直な気持ちで審査をすることができました。前日の一般の部審査では、出品者の気負いに圧倒されましたが、今回は、楽しみながら制作された様子が伝わってきて、審査する側も暖かい気持ちになりました。出品者全員の努力を称え、全員を入選・入賞としたいところですが、展示スペースと賞数に限りがあり、5人の審査員の投票と合議で、まず入選作品を選別し、次に入賞作品を決定しました。

神山財団賞を受賞した宮垣朱音さんの「融和」は群を抜いています。パネルに縮みのある紙を貼り、水彩で水面と水草、鯉を描いています。高い完成度で、成人が描いたと言っても信じられるでしょう。水面上の水草と水面下の水草とを描き分け、透明感のある水の存在感をも表現し、水面の揺らぎまで感じられます。同じく神山財団賞を受賞した伊藤可南子さんの「心像」は、学校の洗面所の鏡に向かう自画像でしょうか。制服姿の像に対して鏡に映るのは裸の像です。制服を着た仮の姿と、嘘偽りの無い本来の姿との対比が油彩で見事に描かれています。

有隣堂賞を受賞した村越敬太さんの「清夏」は、晴天下のひまわり畑が油彩で丁寧に描かれています。雲にも陰影を付けて力強くとらえ、ひまわりと道も細かく描き込んでいます。日差しによる熱気や風の音、ひまわりの匂いまでも伝わってくるようです。同じく有隣堂賞を受賞した小林千紗さんの「鳳凰」は、ペンと水彩で

精緻に根気強く鳳凰（想像上の瑞鳥）を描いています。デザイン的要素が強いですが、色の配列に優れています。

美術奨学会記念賞を受賞した佐々木鶴奈さんの「小さな私」は、洗面所の蛇口の前に小さな姿で座る自己を油彩でとらえ、他人との比較によって自分を卑下したり、自信を無くしたりする若者の心理を表現している優品です。同じく美術奨学会記念賞を受賞した岡本拓海さんの「了仙寺」は、切り絵で山門と石張り通路と草木を細かく表現しています。制約のある切り絵技法を活かしながら、大胆な構図とモノトーンの展開で魅力溢れる作品に仕上げられています。

今回惜しくも選外だった方を含め、来年も是非チャレンジしていただきたい。今後も作品を制作することで情操を養い、心豊かで充実した日々を過ごされることを、そして出品者の中から、将来のビッグ・アーティストが誕生することを願っています。

神山財団賞を受賞した岩田奈巳さんの陶芸作品「青嵐」は、高さが30センチ、直径が35センチという大作で、作風が立派で堂々としている。作品上部の釉<sup>うわぐすり</sup>をはじかせて表した文様も大胆でありながら愛らしさも感じ、釉薬<sup>ゆうやく</sup>も派手ではないが落ち着いたある調子の仕上がりとなっていて好感が持てる。一般的に尺と言われる30センチという大きさが制作上の技術的な壁になっているが、大作に挑戦する意気込みが感じられる。技術、感性と制作意欲のバランスの良い作品であることが評価された。

漆塗料を用いた作品が多く、応募数の約半数以上を占めていたが、全体に丁寧な仕上がりで質的に揃っていて、技術的にも高く、熱心な指導を受けている様子が見られる。その中でも、有隣堂賞を受賞した藤森秋穂さんの絵の塗りの器「深谷長方皿」は縦40センチ、横26センチと大作で、全体の形状、黒と赤の色調の有り様が躍動的で力強い作風であることが評価された。

工芸部門の応募点数の少なさは昨年同様である。人々の暮らしの中から生まれ、長い歴史を刻んできた工芸作品には、その歴史の長さゆえに素材の良さ、精緻な技術力、そして完成度が求められがちで、その習得に年月を要します。制作設備や各種素材の高価さが日常的に工芸素材に接する機会を失わせ、制作に必要な道具の多くが、危険なものとして身辺から遠ざけられていることが素材に対する興味や道具への理解を失わせている要因かと思えます。

また、効率や成果を求める事は日々行われて

来ていて何も今に始まった特別なことではないが、近年の効率や成果優先の考え方や工業製品の普及など生活を取り巻く工芸品への意識の低下も要因かとも思われます。中高生の皆さんには高価な素材であるとか、技術の巧みさのみにとられず、身近にある様々な素材と道具の触感を伴う手作業の楽しさを介して自分と他者との現実的な関わり方の体験から、自身の新たな感性と素材の持つ可能性の発見に繋げて欲しいと願うものであります。

人々の暮らしを支え、日々の生活や心を豊かなものにしてきたのは単純に効率や成果だけではありません。近年は新素材も生まれて来てはいますが、工芸品の多くは天然の素材に由来し、自然と人との暮らしのかかわり合いの中で生まれ育ち、伝統となって来ているもので、制作過程における素材とのかかわり合いの中から、素材固有の性質、質感、色合いを発見し、機能美として人類の感性を育てて来たものであります。その工芸的感性は工業製品の中にあっても人々の生活の中のこだわりの部分として隅々に活かされているのは、工芸品として育んできたものが人の心に近い形をしているからではないでしょうか。

書の部の応募点数は116点その内入選・入賞作品は36点でした。応募点数は昨年比で60点の増加に対して入選・入賞数は昨年比11点増ですから出品者にとっては大変厳しい結果となりました。神奈川県内の学校数、生徒数を考えるとこの展覧会の認知度が増すごとに出品数の増加が期待できます。従って頑張っている人たちをどの様な形で顕彰していくべきなのか将来の展望として求められるでしょう。

さて、出品作の傾向についてですが、学校や団体の単位での出品が多いように思われ、指導者のカラーが見え隠れしており興味深く拝見いたしました。古典臨書あり漢字仮名交じり、一字書等広範囲の作品が応募されています。古典も比較的原典に則り書いた作品が多く微笑ましく思いました。しかしながら審査の場面では往々にして墨の入った力強い作品が目に残ることが多いものです。中学生は学齢に相応しい作でよいと思いますが、高校生は藝術科目としての書ということを念頭に置いて自分自身の古典の捉え方を前面に押し出した作品を目指すようによいでしょう。

次に受賞作品について触れてみたいと思います。

◎田中つぐみさん『臨 王鐸』：素材の選定、表現とも抜群の力を見せつけた作品に仕上がっている。高校生としては扱いが難しい王鐸を緩急、線の強弱、墨の潤濁等々行き届いたので完成度が高い。

◎阿閉ゆりさん『臨 石山切貫之集』：テンポが速くりズムのある運筆である原典のムードを

捉え書ききっている。高校生ということを考えているならば余白、行間への配慮がとても素晴らしい。抑揚ある美しい筆使いであり将来が楽しみである。

◎棧敷真惟さん『臨 蘭亭叙』：中学二年生という学齢で果敢に古典に挑戦している姿を想像すると頼もしい。とても伸びやかに素直に書いている。多々ある蘭亭叙の中でも八往第三本の「和」の旁が日のように見えるが八往第一や第二本では口になっている。他の蘭亭叙と比較しながら書いてみると楽しいものです。

◎原 千尋さん『関戸本古今集』：少し幼い感じではあるが正面から古筆に向かう姿勢が実直で爽やかである。努力が感じられる秀作といえる。

◎山崎成海さん『龍』：墨も黒々と紙面いっぱい堂々とした元気溢れる一字書である。一字の中に潤濁は出せているが、柔軟性のあるしなやかな線が入れば更によくなる。

◎簗島ひかりさん『まぶしい日に』：1行7文字の近代詩文書作品。温かみある線と繊細な線を用いてゆったりした作品に纏めている。字間の距離や天地の余白を考慮すると更によくなるのでは…。

最後になりましたが、どの様な作品を書く場合もその人の勉強してきた背景が現れるものです。先人の残した足跡を大切にコツコツ努力勉強してください。必ず結果が出せるでしょう。



写真は液晶画面で見る機会が今日圧倒的に増えました。スマートフォン、PCなどインターネット環境の賜物です。日々膨大な量の画像が世界を駆け巡っています。液晶画面は流れるように消えていってしまい、じっくり見るという経験が希薄になりつつあるのですが、こうしてみなさんのプリントを拝見すると、やはり液晶画面では確認できない独特なトーンやプリントの表面のテクスチャーなど作者の特別な思い入れを感じます。

さて受賞作は全て人が入っていない写真になってしまいました。これは個人の権利意識の高まりがプライバシー、肖像権といった配慮をしなければならなくなったので、人物写真やスナップ写真などの発表が難しくなっていることが背景にあるのでしょうか。人を撮影した応募作品は友達や知り合いの写真が多く、気軽にとりすぎているのでしょうか、緊張感に欠け良い作品が少なく残念でした。次回は人物写真の力作を期待します。

神山財団賞 稲葉ひよりさんの「カレイドグラス」は光の乱反射を利用して万華鏡的色彩と右側のぼけたブルーの色彩との絶妙なバランスで構成されており、見るものを別世界に誘ってくれます。光るアルミの短冊なのでしょうか？何を撮ったのかが分からないのですが、しかし非常にリアルでもあります。この抽象と具象のバランスが優れた訴求力を醸し出しましょう。

有隣堂賞 野中康平さんの「タイムトンネル」はスベリ台の周りにある安全防止の柵だと思

われるものを中心遠近法で上手くまとめられています。構図の思いっきり良さも効果的です。遠景に住宅街や公園内の様子が見えるのも、遠近感が強調されており画面に奥行きを与えています。

美術奨学会記念賞 松原知里さんの「blue sky bulb」は手に持った電球のフィラメントとガラスの曲線を透して雲が多い空を青色一色に統一した画面が快い印象を与えます。同じ賞山口 耀さんの「ガラクタ王国と力の源」は資材置き場でしょうか、そこにあるブロック、斜光による地面に落ちた影のバランスがリズムカルに構成されておりとても不思議です。作者の画面構成力の斬新さがこの写真の力だと思います。

最後に、写真はデジタルカメラの出現でもう誰でも簡単に大量に撮影することができるようになりました。何を見て、そして何を表現するのかという根源的なことをもう一度よく考えて、撮ること以上に多くのイメージの中から何を伝えたいかをよく考えて選んでください。フィルムで撮影することが大変な技術を要した時代から、誰でもがシャッターを押せばいとも簡単にそして綺麗に撮れるようになった時代だからこそ、何を選択するかが大きな要因だと思われれます。

今年度は275人による377点の作品応募がありました。これは前回（224人／326点）を上回るもので、芸術表現に取り組む中高生にとって、この賞がより広く受け入れられてきた結果ではないかと思えます。特に今回は、書が前年の54人から114人と倍増し、見ごたえのある作品が多く集まりました。

平面立体の出品者は前回より14人ほど増加しました。その中で、宮垣さんの作品はその発想力と描写力により際立った存在感を放っていました。2点の応募作品のうち入選とならなかった作品も、非常に印象的なものでした。伊藤さんの作品は、工夫された構図と色彩で鏡の前の人物像を描き出していて、まっすぐな瑞々しい表現に心を動かされました。立体作品の入選者は、今回は惜しくも出ませんでした。立体作品は制作に設備や時間もかかるものですが、今後も多くの方の応募を期待したいと思います。

工芸では岩田さんと藤森さんが入賞となりましたが、巧さとともにそれぞれに味わいのある作品でした。岩田さんの丁寧に文様を施した量感のある壺、藤森さんのおおらかな形の皿は、いずれも手に取ってみたい、使ってみてみたいと思わせる、工芸の本質である「用の美」を備えていた点で素晴らしかったです。

書は、応募者が倍増したことから選考は前年より難しいものとなりました。古の人の遺した筆蹟をお手本とし、臨書する過程で、故人や歴史に向き合いつつ自己をも表現するということに魅力があります。田中さん、阿閉さんの作品からは、そのように古筆と対峙した時間の長

さや緊張感が、筆遣いから伝わってくるようで非常に好感を持ちました。

写真は前回より少し減ったものの、53名128点の応募がありました。旅や日常のスナップが多く見られる中で、構図や被写体の捉え方の工夫など、「写真としての面白さ」を追求した作品が多く入選する結果となりました。稲葉さんの、これは何を撮ったのだらうと思わせる、多彩なきらめきを写し撮った作品と、野中さんの臨場感のある構図の作品は、対照的ですが、一瞬を切り取るという写真の醍醐味が見事にあらわされていました。

絵画や写真など、どのような方法にせよ、自分の表現したいことを思うままに表現するということは、非常に難しいことです。視野をより広げ、物事の多様な側面を見つめ、感じ取りながら自分の世界観を広げていってください。来年もさらなる力作が見られることを楽しみにしています。



### 神山財団賞

---

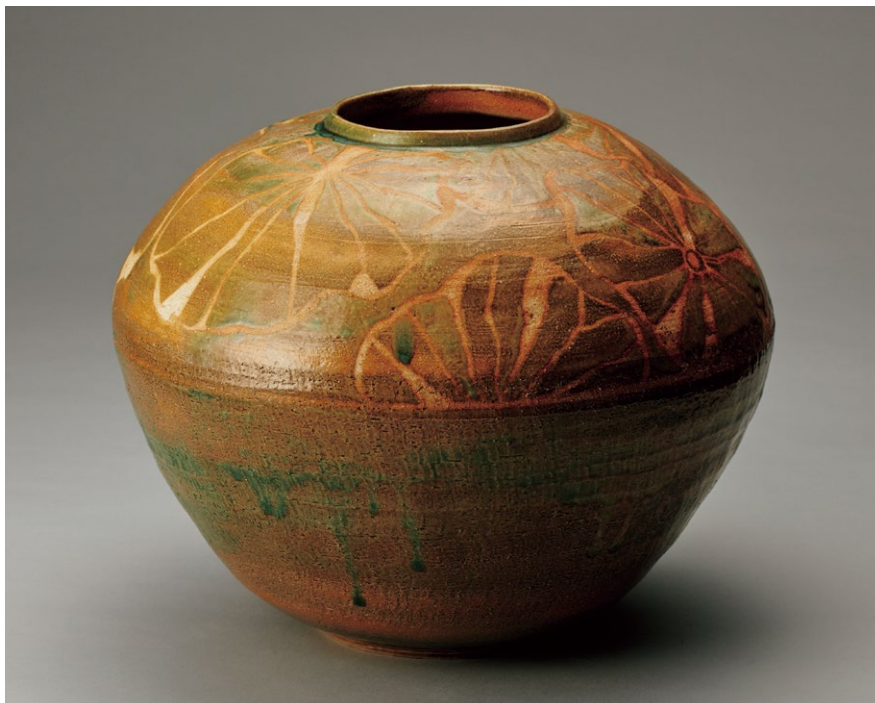
心像 伊藤 可南子  
私立東海大学付属相模高等学校 高2  
[平面]



### 神山財団賞

---

融和 宮垣 朱音  
県立上矢部高等学校 高3  
[平面]



神山財団賞

---

青嵐

岩田 奈巳

県立上矢部高等学校 高1

[工芸]



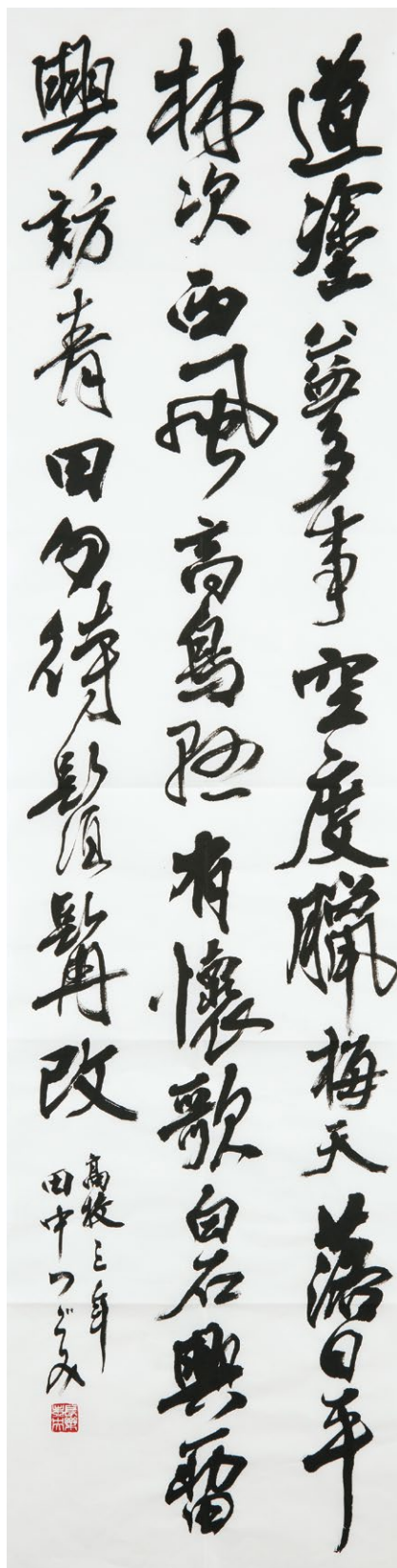
神山財団賞

---

カレイドグラス 稲葉 ひより

県立瀬谷高等学校 高2

[写真]



神山財団賞

臨 王鐸

田中 つぐみ

県立荏田高等学校 高3

[書]

有隣堂賞

---

鳳凰

小林 千紗

県立岸根高等学校 高1

[平面]



有隣堂賞

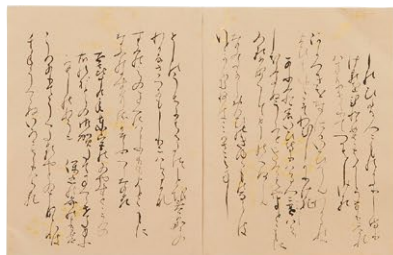
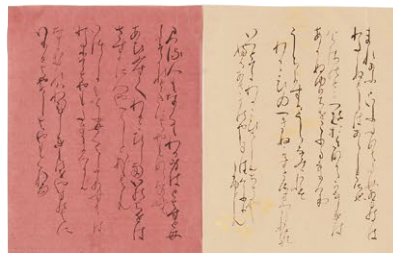
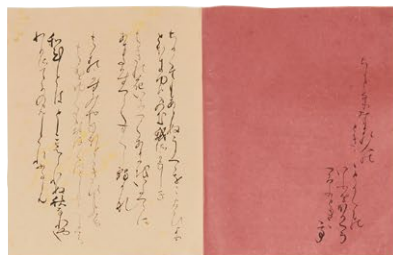
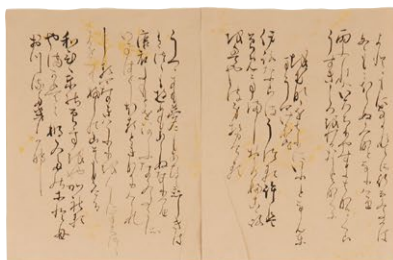
---

清夏

村越 敬太

県立藤沢西高等学校 高2

[平面]



有隣堂賞

臨 石山切貫之集

阿閉 ゆり

私立湘南学院高等学校 高3

[書]





有隣堂賞

---

深谷長方皿 藤森 秋穂  
綾瀬市立北の台中学校 中2  
[工芸]



有隣堂賞

---

タイムトンネル  
野中 康平  
県立市ケ尾高等学校 高2  
[写真]

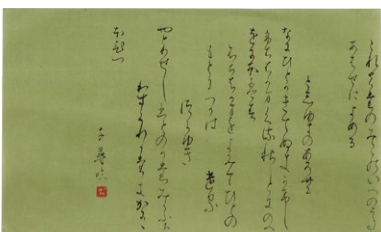
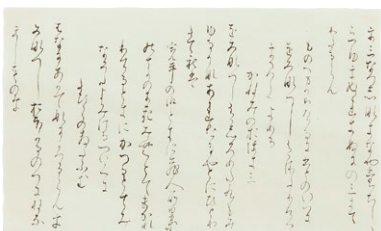
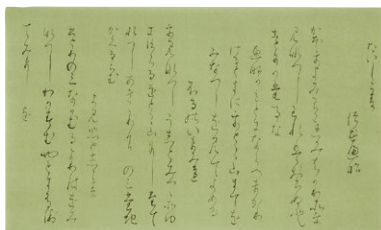
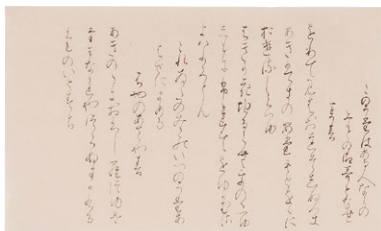
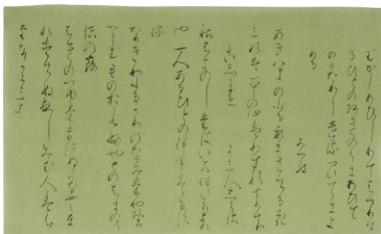
### ゴールデン文具賞

関戸本古今集

原 千尋

川崎市立高津高等学校 高2

[書]



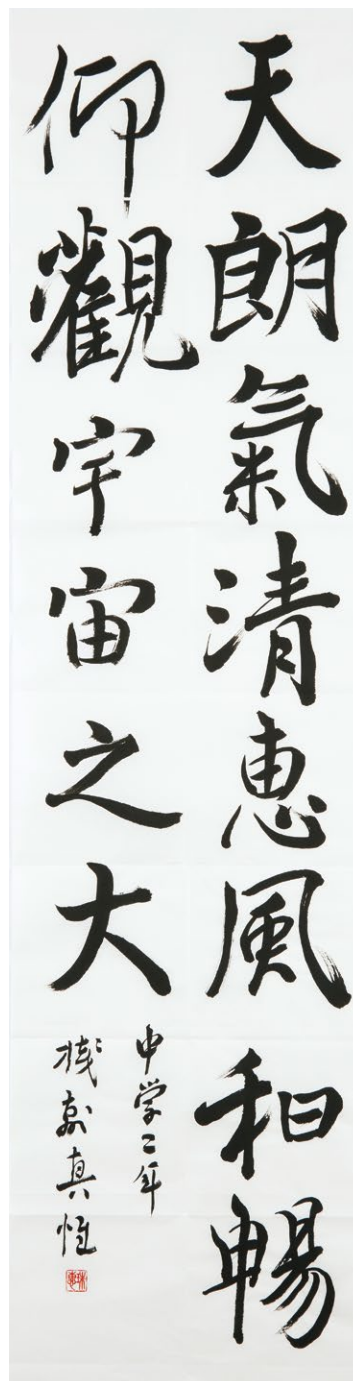
### ゴールデン文具賞

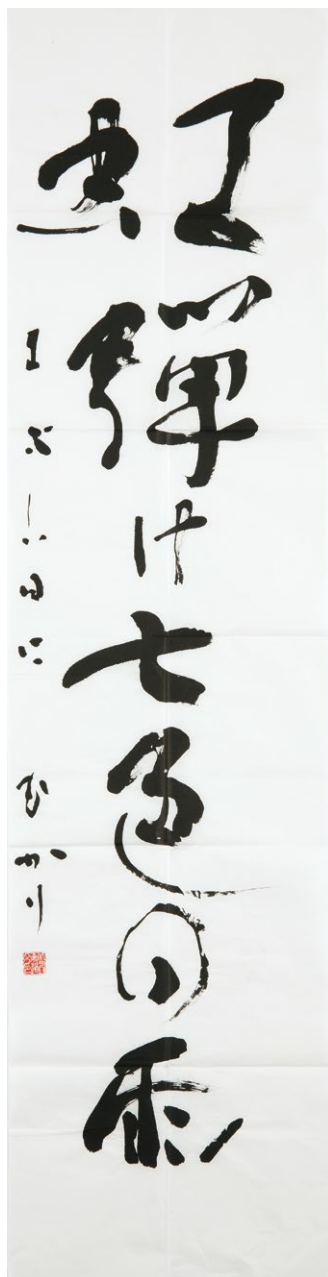
臨 蘭亭叙

棧敷 真惟

横浜市立六角橋中学校 中2

[書]





ゴールデン文具賞

龍  
山崎 成海  
県立港北高等学校 高2  
[書]

美術奨学会記念賞

まぶしい日に  
叢島 ひかり  
私立湘南白百合学園高等学校 高1  
[書]

美術奨学会記念賞

了仙寺

岡本 拓海

県立相模田名高等学校 高3

[平面]



美術奨学会記念賞

小さな私

佐々木 鶴奈

私立横浜隼人高等学校 高1

[平面]



美術奨学会記念賞

---

blue sky bulb

松原 知里

県立相模原青陵高等学校 高3

[写真]



美術奨学会記念賞

---

ガラクタ王国と力の源 山口 耀

県立相模原青陵高等学校 高2

[写真]

## 審査員

五十嵐 卓、川口 淳、西村 東軒、伊奈 英次、西澤 晴美

### 応募者数・入選数・入賞者数一覧

平成28年度（第52回）

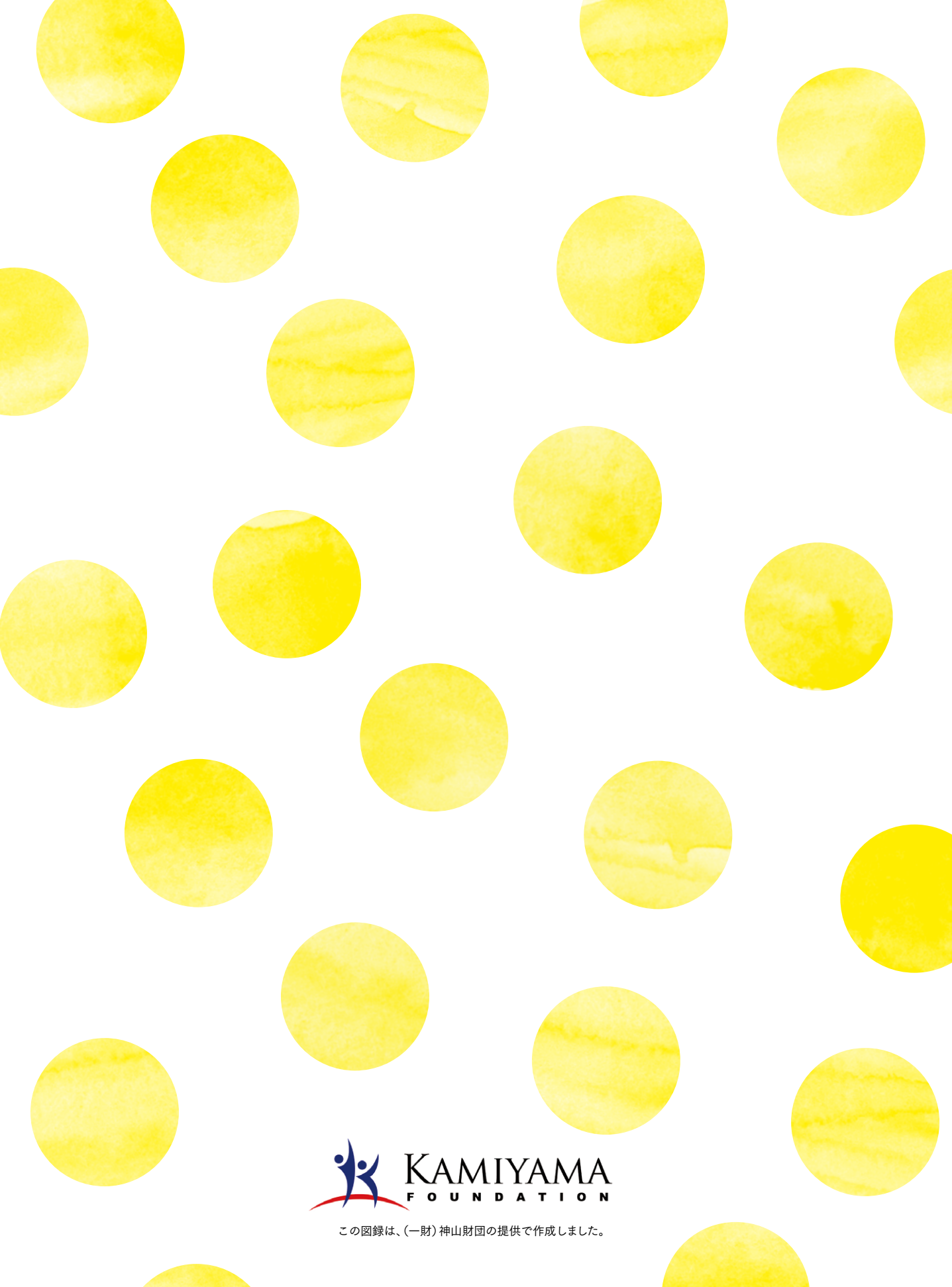
	平面	立体	工芸	書	写真	合計
応募人数	81	3	24	114	53	275
応募点数	99	3	31	116	128	377
入選点数	29	0	14	36	19	98
内、入賞	6	0	2	6	4	18

平成27年度（第51回）

	平面	立体	工芸	書	写真	合計
応募人数	69	1	20	54	80	224
応募点数	78	1	21	56	170	326
入選点数	38	0	8	25	34	105
内、入賞	5	0	2	4	4	15

平成26年度（第50回）

	平面	立体	工芸	書	写真	合計
応募人数	31	1	21	8	12	73
応募点数	33	3	27	9	15	87
入選点数	19	1	15	6	5	46
内、入賞	2	1	2	2	1	8



この図録は、(一財) 神山財団の提供で作成しました。